

## 【新市学区】学校再編に係る地域説明会 概要

\*分かりやすくするため、一部補足を加えています。

【日時】 2019年（令和元年）9月12日（木） 19:30～20:45

【場所】 新市公民館 2階 ホール

【出席】 参加者 19人（地域、保護者 他）

行政 10人（教育次長、管理部長、学校教育部長 他）

### 【内容】

- 1 開会
- 2 あいさつ（教育次長）
- 3 説明
  - ・新市中央中学校と常金中学校の再編について
  - ・開校準備委員会について
- 4 意見交換
- 5 閉会

### あいさつ

（教育次長）

- ・全国的に少子化が進む中、本市も子どもの数が減ってきています。1980年頃がピークで、現在、当時の約6割にまで子どもの数が減っている状況です。約25年後には今より更に3分の1減少し、ピーク時と比べて、約半分になるという推計も出ています。
- ・一方で学校の数は、過去、子どもの数が増え分離新設した当時と変わっておらず、現在小中合わせて111校ありますが、1つの学校に通う子どもの数が減ってきています。新市町では、新市中央中学校も生徒数は減ってきていますが、常金中学校は各学年20人をきる状況となっています。
- ・こうした状況から常金中学校と新市中央中学校を再編し、集団の規模を維持し、今後、子どもたちが主体的・対話的で深い学びができるよう環境を整えていきたいと考えています。本日は学校再編の目的などを説明し、御意見をいただきたいと思っております。教育委員会としては、これからの子どもたちの教育環境をより良くしていくことを第一に考え進めていく考えです。

### 意見交換（出席者から出された意見等）

#### ■学校再編に関すること

- それぞれの学校で保護者へ説明し、意見交換をしているが、具体的にどのような話がでているか。新市中央中の保護者は、常金中の保護者がどんな心配をしているのかを気にかけている。

→（回答）

どの学区でも、学校再編の目的や教育効果についての質問のほか、常金丸学区の方々の気持ちを思った意見が多く出されています。「地域や保護者が今の学校を残してほしいのであれば、方法はないのか」「再編後、新市中央中学校への通学はどのようになるのか、安全を一番に考えてほしい」「常金丸の方が地域の過疎化を心配するのはよく分かる」といった意見をいただいています。

常金中の保護者は、「常金中学校区は1小学校1中学校で学校の結びつきがとても強く、地域はどちらの学校の教育活動にも深く関わり、良い教育環境の中で子どもたちが育っている。このまま地域と子どもたちの結びつきを継続したい。学校を残してほしい。」といった意見が多数です。

- 再編すると常金にはスクールバスが出ると思うが、例えば戸手も距離的に同じ状況になれば、同じようにバスを出す必要が出てくるのではないか。
- 常金中から新市中央中までは6km以内か。6km以内であれば支援はないのか。

→ (回答)

中学校の通学支援については、通学距離が6km以上という国の基準があり、その基準に沿って通学支援を検討します。常金中学校から新市中央中学校までは、道のりの距離で約6km弱あります。学校再編にあたっては、子どもの安全な登下校を一番に考え、保護者や地域の方々の御意見を伺いながら通学方法を検討していきます。新市中央中学校区の子どもたちについても、基準を超えて登校している生徒がいれば対応します。(現在、該当している生徒はいません。)

- 今回は中学校の再編と理解してよいか。新市町全体で見ると小学校単位での再編も今後進むのではないと思うが、これはまた別の時期に検討するという事か。

→ (回答)

市全体の学校規模と学校配置を見直すため、「小中一貫教育と学校教育環境に関する基本方針」を策定し、取組を進めています。基本方針では段階を追って取組を進めることとし、現在は、第1要件に該当する複式学級のある小学校、学級が20人に満たない中学校について、再編の取組を行っています。今後、第2要件、第3要件と取り組んでいく考えです。

新市町の4つの小学校は、戸手小学校が一番児童数が多く適正規模、他の小学校は第3要件(学級数が6から11学級)に該当しています。常金丸小学校については、校舎の建替えが必要という課題があり、中学校の再編と併せ、将来的な児童数の推移を見ながら整備方針の検討を重ねましたが、当分の間第3要件の規模を維持できる見込みがあり、中学校の場所に新しい校舎を建設する計画としました。

教育委員会としては、段階を追って、市全体を望ましい学校規模に整え、教育環境を向上させていきたいと考えています。

- 第3要件の学校までが再編の対象という話だが、こういった規模が適正規模と考えているか。
- 小学校が第3要件に該当すると、4校ある小学校が2校になることも将来的には出てくることになると思うが、子どもの数を前提で学校運営すると本来の学校の在り方がどうなのかという気がする。

→ (回答)

教育委員会では、小学校は各学年2～3学級、中学校は各学年3～4学級を適正な学校規模と定めています。大規模校にも課題はありますが、児童生徒数は今後も減少傾向にあり、学校の分離・新設は、その地域を分断することにもつながるため慎重に考えています。子どもたちには、仲間と共に切磋琢磨し、多様な人の意見を聞きながら学び合うことができる環境が必要です。そのため、一定の集団規模を整えるため、学校規模の適正化に取り組んでいきます。

中学校の教育活動において、子どもたち同士の話し合い、多様な意見を交換しながらより良い答えを見つけていく活動には、1つの学級に20人以上は必要だと考えます。これからの子どもたちに付けたい力を考えたとき、自分で考えたことを誰かに伝える、一緒により良い答えを考えるとといった教育活動を実践していくためには、一定規模の集団が必要です。

- 再編について、学校現場の主役は子どもたちなので、折に触れて適当な時期に子どもたちの率直な思いを聞きながらスムーズな再編移行をしていただきたい。
- 行政の都合とならないように子どもの思いをしっかりと受け止めて、地域の保護者の皆さんと一緒に新しい学校づくりへ取り組んでいていただきたい。主役は子ども、生徒。そこを大事にしてほしい。

→ (回答)

子どもたちの気持ちをしっかりと受け止めて進めていきます。常金丸学区での説明会では中学生もその会場に来ており、常金中学校への思いを述べてくれました。

御意見のとおり、主役は子どもたちです。子どもたちが安心して過ごし、学びをより面白いと実感できる環境づくりをしていきます。

- 常金丸の皆さんから「とにかく反対、承諾してない」と聞いた。常金丸の人たちの意見はどうか。

→ (回答)

常金丸学区から7月1日に、「再編計画を白紙撤回してほしい」という要望書を受け取りました。地域と学校と一緒に子どもたちを育ててきた、その思いが要望になって出てきたと受け止めています。

また、再編までの期間が短く、不安を感じているということもありました。教育委員会から7月31日に要望に対して回答しましたが、計画に理解をいただいているという状況ではありません。

この新市学区で、保護者、地域の役員に説明させていただいたときに、「新市町全体で子どもたちのことを考えていくべきだ」との御意見もいただいています。そのことも常金丸学区の人たちには伝えていきます。今後も、継続的に話し合いを重ねていきます。

## ■教育に関すること

- 現在、特別支援学級はどうなっているか。再編で一緒になった場合に何か課題が出てくるようなことはないか。

→ (回答)

今年度、両校とも特別支援学級は2クラスあります。個々の状況に応じ、丁寧に対応していきます。

- この再編の話に中学校の先生方は賛成したのか。生徒には説明したのか。生徒に説明しているのであれば、どういう反応をしたのか聞きたい。
- 常金の子どもたちが新市へ来ると、最初は精神的な不安があると思う。ケアが必要だと思うが、どのように考えているか。
- 再編の理由は児童・生徒数の減少と聞いているが、生徒数を増やす工夫や案は出たのか。学校の方針であったり、策を講じることで市外あるいは県外、全国から人が集まった事例も聞く。そのあたりはどう考えているか。

→ (回答)

学校再編について、教育委員会から校長、教頭へ説明し、校長から教員へ説明しています。

子どもたちには、保護者や地域の御理解をいただき、新しい学校づくりに向けて開校準備委員会を設置することになった段階で説明の場を設け、思いを聞きます。

それまでは、先生や子どもたちの意見や思いは、校長や教頭、保護者、地域の方を通じて聞かせてもらうことにしています。「保護者には、子どもたちの不安な思いなどは、意見交換の際に聞かせてほしい。対応策を示し、できるだけの対応を考える」と話しています。

子どもの心のケアについては、学校には、スクールカウンセラーを配置し、教室に行くのが負担であれば、別の教室を用意して話を聞いたり学習したりすることができるようにしていきます。開校までの間は、交流授業を計画的に行い、新市中央中学校と常金中学校の子どもたちが互いの学校を歩き来し、一緒に授業を受けたり、課外授業に出かけるなど交流を図る中で、友達関係をつくっていきけるよう取り組みます。

子どもの人数を増やす努力については、市では人口減少対策、少子化対策に取り組んでいますが、1つの学校や市内の特定の地域の人口を増やすということは難しい状況です。

○ 再編して新しい学校をつくるのであれば、どういう教育をするのか、どのようなことを学ばせていくかが大事ではないか。教育は人間をつくっていく、高めていく場と思うので教育の内容について具体的に話を聞きたい。

→ (回答)

新しい学校の具体的な教育内容は、両校の中学校の教員が話し合い、それぞれの学校がこれまで培ってきた良いものを互いに継承しながら新しいものをつくっていくこととなります。どの中学校も育てるべき力を設定しており、常金中学校では「課題解決力・コミュニケーション力・挑戦する力・地域貢献力」、新市中央中学校では「より良く考える力・チャレンジする力・つながる力」を設定しています。

2つの学校が一緒になったとき、「より良く考える力」を踏まえて、「課題・発見・解決力」を養う教育課程をつくることも考えられます。現在常金中学校では、地元企業の「カイハラ」と連携し、職場体験や総合的な学習の時間を通して体験学習を行っています。例えばこれを英語学習につなげ、「学習した英語を使って地元企業を発信するアピール文を作成する」などといった活動を連動させることで、自ら課題を発見したり、解決したりする力をつけていくといったものです。

その他にも両中学校区には豊富な地域資源があり、それらを生かしたより効果の高まる教育内容を、両校の教員で新しく作り出していくことを考えています。

○ 常金丸地域の教育力は素晴らしいものがある。中学校では生徒会が中心になって各地域へ出向き、地域の方々との交流会を20数年続けている。こうした子どもも地域も一体となった地域の教育力を育む場を再編後も存続するよう考えてもらいたい。

→ (回答)

新市中央中学校区も常金中学校区も地域の皆さんの協力を得て様々な取組をしています。新しい学校にも地域の協力が必要です。再編し、新たな1つの学校になったとき、現在行っている全ての取組を引き継ぐことは難しいと考えますが、両校がそれぞれ大事にしてきたことを、常金丸の地域の方々、新市中央中学校区の地域の方々に協力いただき、新しい学校づくりに生かしていきたい。地域の皆さんに、新しい学校を育てていただきたいと思いますと考えています。